

福祉まつりふれあい広場2018の様子【関連記事5ページ】

日本体育大学・当別町・北海道銀行との連携について



北海道医療大学 学長 浅香 正博

日本体育大学・当別町・北海道銀行と本学との連携協定は9月7日(金)に締結される予定でしたが、前日に発生した北海道胆振東部地震の影響により11月に延期となりました。こうなることは予想もつかなかったため、取材を受けていた北海道新聞には8月31日(金)付けで、「北海道医療大学、日本体育大学、当別町、北海道銀行の4者がスポーツ、地方創生で協定を結ぶ」という記事がかなりのスペースで掲載されました。

連携協定に至った経緯を簡単に述べると、2018年4月下旬に宮司正毅当別町長から「当別町は日本体育大学との連携を考えてこれから動こうと思っているが、北海道医療大学はこの件に関し、興味はありませんか」との連絡がありました。すぐに東郷重興理事長に連絡したところ、「進めの方が良い」との返事を得ましたので、この連携協議に参加したい旨、返事しました。これがすべての始まりです。

その後、6月4日(月)に日本体育大学を宮司町長、東郷理事長とともに訪問し、意見交換をして参りました。日本体育大学は1949年に日本体育専門学校から移行して創立されており、現在、体育学部、スポーツ文化学部、スポーツマネジメント学部、児童スポーツ教育学部、保健医療学部の5学部を有する我が国最大の体育系総合大学です。我々が訪問した世田谷キャンパスは、東京世田谷の一等地に約4万平方メートルの広大な敷地を有しており、新校舎が建設されたばかりでし

た。ここで今村裕常務理事とお会いし、日本体育大学について詳しい説明を受けました。日本体育大学は横浜にも17万平方メートルの敷地を有し、体育館のほか、公式大会で使用できる陸上競技場、50mプール、野球場、サッカー場、ラグビー場、テニスコートなどが整備されています。オリンピック選手を多く輩出したことで知られており、これまで我が国が獲得したオリンピックの金メダルの約40%は日本体育大学の学生または卒業生とのことでした。

その後、日本体育大学の関係者が来学され、両者の連携がお互いにプラスとなるかどうかについて慎重に話し合いが行われました。その結果、二つの大学が連携することによってお互いを補完できる可能性が高いという結論に至りました。競合分野が少なく、協力することによるメリットが大きいことが理解できたのです。11月5日(月)に正式の連携協定書を取り交わしましたが、当初は緩やかなものからスタートして様子を見ていくこととしました。まずは日本体育大学の札幌での入試を本学の札幌サテライトキャンパスで行い、本学の東京での入試を日本体育大学の世田谷キャンパスで行うことから始まりそうです。

今後、さらに検討を深め北海道医療大学の発展に寄与できるよう進展させたいと考えていますので、皆様には期待いただきながら温かく見守っていただきたいと思います。

【関連記事12ページ】

CONTENTS

日本体育大学・当別町・北海道銀行との連携について	1
新任教員・昇任教員紹介	2
言語聴覚療法学科の高倉樹祐助教が最優秀研究発表賞を受賞。	
2018年度 語学研修 アルバタ大学(カナダ)において語学研修を実施しました。	
2018年度 国際交流	3
OPEN CAMPUS 2018 開催報告	4
福祉まつりふれあい広場2018 参加レポート	5
2019年度入試結果速報	6
札幌丘珠高等学校との高大連携授業を実施。札幌開成中等教育学校特別講義を実施。	
地区別懇談会を開催	7
学内合同就職相談会を開催	
私の学生時代	8
OB訪問【臨床福祉学科】	9
あのと。これから。医療大。	10
2018 SCP(学生キャンパス副学長)任命式	11
大学院歯学研究所の原文文也さん(現・歯学部助教)がデュアルディグリーを取得。	
2018年度(第24回)SCRIP日本代表選抜大会で本学が臨床部門第1位入賞。	
歯学部岡山三紀講師がアジアベンチプレス選手権大会で金メダルを獲得。	
TOPICS	12
EDITOR'S NOTE	

新任教員・昇任教員紹介

新規選出教員役職者



大学院副院長
吉田 純一 (よしだ じゅんいち)

新任教員



薬学部准教授
(薬理学講座)
中川 勉 (なかがわ つとむ)

北海道大学薬学部総合薬学専攻卒業。同大学院薬学研究科臨床薬学専攻修士課程修了。同大学院薬学研究科臨床薬学専攻博士課程修了。大阪大学大学院医学系研究科生化学講座博士研究員、テキサス大学サウスウェスタンメディカルセンター研究員、神戸大学大学院医学研究科特命講師(臨床薬理学)などを経て、本学就任。薬学博士。



看護福祉学部助教
(看護学科母子看護学)
丸山 奈己 (まるやま なみ)



リハビリテーション科学部助教
(理学療法学科)
岩部 達也 (いわべ たつや)

昇任教員



薬学部教授
(薬理学講座)
柳川 芳毅 (やながわ よしき)

北海道大学薬学部卒業。同大学院薬学研究科薬学専攻修士課程修了。吉富製薬株式会社(現田辺三菱製薬)東京研究所主任、北海道大学道徳学研究所病態研究部門免疫生体分子群助教、水戸大学薬学部客員研究員、本学薬学部薬理学講座(病態生理学)准教授などを経て、教授昇任。薬学博士。



歯学部教授
(口腔構造 機能発育学系(歯科矯正学))
飯嶋 雅弘 (いいじま まさひろ)

本学歯学部卒業。同大学院歯学研究科博士課程修了。本学歯学部矯正歯科学講座助手、オハイオ州立大学歯学部客員研究員、本学歯学部矯正歯科学講座准教授などを経て、教授昇任。歯学博士。



リハビリテーション科学部講師
小林 健史 (こばやし けんじ)

日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科、札幌医療福祉専門学校言語聴覚療法専攻学科卒業。明星大学大学院人文学部研究科教育学専攻博士前期課程(通信教育課程)修了。中経洋行児童サービスセンター言語聴覚士。本学心理学部言語聴覚療法学科助教、北海道医療大学病院言語聴覚治療室言語聴覚士などを経て、講師就任。

言語聴覚療法学科の高倉祐樹助教が最優秀研究発表賞を受賞。

10月6・7日(土・日)、宮城県仙台市で開催された第21回認知神経心理学研究会において、リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科の高倉祐樹助教(北海道医療大学病院言語聴覚治療室勤務)が最優秀研究発表賞を受賞しました。

「慢性期皮質下性失語例に対する意味属性分析 (Semantic feature analysis:SFA) 訓練の試み」

発表者: 高倉祐樹、大槻美佳、宇野彰

近年、失語症の呼称障害に対して、意味属性分析(Semantic feature analysis:SFA)という訓練手法の有効性を示唆する研究が増加していますが、国内での報告はまだ少ないのが現状です。本研究は、呼称障害を主症状とした1例に対するSFA訓練の効果を、他の訓練法(復唱的呼称訓練)との比較を通して明らかにしたものです。本研究で得られた結果は、より多数例での訓練効果の検証や、失語症の病態に応じたより効果的な訓練プログラムの構築に役立つことが期待されます。



2018年度 語学研修 アルバータ大学(カナダ)において 語学研修を実施しました。

8月4日(土)から24日(金)までの21日間、17名の学生(薬学部4名、看護福祉学部11名、心理科学部1名、リハビリテーション科学部2名)がカナダのアルバータ大学において語学研修プログラムに参加しました。

午前の語学クラスでは、ダウンタウンのキャンパスでレベル別のクラスで英語を学び、午後からはメインキャンパスの学部別ツアーや、障害者施設訪問、アルバータ州議事堂見学、歴史村散策などの様々な学外アクティビティを体験しました。また、2泊3日のロッキーツアーでは、世界遺産であるカナディアンロッキーを訪れ、「ロッキーの宝石」と呼ばれるエメラルド色の湖水のレイクルイーズなど壮大な自然の中でネイチャーウォークや、カヌーを楽しみました。カナダ滞在中、学生はカナダ人の家庭でホームステイをし、生活習慣や文化、生きた英語を学びました。

本研修は、看護福祉学部のワード・ターノフ教授と薬学部の遠藤朋子助手が引率し、本学のモニターとなったアルバータ大学看護学生のMattくんとともに学生の研修を支援しました。



海外提携校からの短期研修を実施。

薬学部

台北医学大学 (台湾)

● 林揚智さん ● 巫靚嬋さん
[7月30日(月)~8月26日(日)]

2013年度から毎年実施している学生交流事業(派遣・受入れ)は、今年度で6回目となります。研修は、アインファーマシーズ、JCHO札幌北辰病院、札幌東徳洲会病院等への学外施設訪問など、盛りだくさんのプログラムが用意され、本学学生も各施設に同行して留学生を支援しました。8月23日(木)には報告会を開催、多くの教員やサポート学生が参加しました。プレゼンテーションの最後には、留学生がお世話になった教員に対して感謝の意を日本語でスピーチする感動的な場面もみられました。2019年3月には本学学生が台北への派遣も予定しており、今後も両校の活発な交流が期待されます。



歯学部附属歯科衛生士専門学校

台北医学大学(台湾)

[8月27日(月)~31日(金)]

歯学部附属歯科衛生士専門学校において台北医学大学からの短期研修生4名を受け入れました。本校1年生とともに、組織発生学や歯科予防処置論の講義をはじめ、アルジネート印象材の取扱いやマネキン実習の歯科診療補助論、キュレットスケーリングの歯科予防処置論、ブラッシング法の歯科保健指導論を受講しました。スマートフォンのアプリを駆使しながら在校生と交流し、台湾と日本の文化や生活など様々な情報を交換しました。



歯学部

イエテボリ大学 (スウェーデン)

● Jiang Xuesongさん [7月2日(月)~24日(火)]
● Fredrik Engströmさん [7月17日(火)~20日(金)]
● Johannes Valdemar Daniel Malmberg Janssonさん
● Frida Hjerténさん ● Frida Hanssonさん
[7月17日(火)~24日(火)]

極東国立総合医科大学 (ロシア)

● Elizaveta Sukhoveiさん
● Igor Shibanovさん [7月9日(月)~27日(金)]

ルブリン医科大学 (ポーランド)

● Karolina Kowalikさん [7月17日(火)~23日(月)]

ストラスブール大学 (フランス)

● Cléa Wagnerさん [7月11日(水)~9月14日(金)]

中山大学 (中国)

● Liu Jiangchenさん ● Wang Benさん ● Liu Yiwenさん
● Lin Yujingさん ● Lu Yunyangさん ● Zhou Ziyuさん
[7月30日(月)~8月24日(金)]

研修の前半は、3回目の参加となる極東国立総合医科大学のElizaveta Sukhoveiさんがリーダーとなり、イエテボリ大学、極東国立総合医科大学、今回が初の受入れとなるルブリン医科大学、ストラスブール大学(フランス)の総勢9名で歯学部各研究室や、歯科クリニック、大学病院で研修を行いました。昨年度の研修で交流した本学学生との再会で笑顔もみられました。研修の後半は、中山大学の皆さんが熱心にプログラムに取り組み、一緒に来日した同大学の職員の方も研修を見学されました。最終日の報告会では、「蛍の光」を日本語で歌うパフォーマンスもあり、大変充実した研修となりました。

6月に実施したチュロンコン大学(タイ)の研修も含め、今夏、歯学部では17名の海外研修生を受け入れました。今後ますます活発な国際交流が期待されます。



台北医学大学(台湾)との合同シンポジウムを開催。

8月20日(月)10時から、中央講義棟10階において合同シンポジウムが開催されました。浅香学長からの冒頭挨拶の後、歯科医学教育、バイオマテリアル、そしてデュアルディグリー・プログラムなどに関する3つのセッションが16時近くまで行われました。それぞれの発表では参加者から活発な質疑応答が行われ、大変有意義なシンポジウムとなりました。最後には両校でプレゼント交換が行われ、終始和やかな雰囲気のなかで約80名の参加者が交流しました。今後は交互に開催することで合意し、来年の第2回合同シンポジウムは台北医学大学で開催予定です。学部学生の交流も含め、両校のますますの活発な交流が期待されます。



延世大学(韓国)教員と大学院生が来学。

8月28日(火)、延世大学から教員3名および大学院生10名が来学されました。午前には本学の概要説明の後、キャンパスを見学し、臨床福祉学科では介護用機器とOSCEに関する説明が行われました。午後は札幌あいの里キャンパスに移動し、地域包括ケアセンターにおいて見学と意見交換が行われました。来訪された教員から本学との学術交流を望む声もあり、今後、隣国である韓国との交流の深まりも期待されます。



イエテボリ大学(スウェーデン)との教員意見交換会を開催。

9月19日(水)に口腔衛生学科の2名の教員とインターナショナル・オフィスの職員1名が来学され、歯学部附属歯科衛生士専門学校の専任教員と意見交換をしました。本校の教育システムを紹介するとともに、イエテボリ大学での3年間の教育内容をお聞きしました。イエテボリ大学は Semester制で、1年次から専門基礎科目と臨床科目を同時に進行させ、特に、放射線学や麻酔学には相当の時間を割いて教育しているようです。より臨床色の濃い教育内容となっている印象を強く受けました。短い時間ではありましたが、大変有意義なひと時を過ごすことができ、最後に記念品の交換をしました。2019年3月中旬には短期間、イエテボリ大学へ研修を希望する本校学生がいることをお伝えし、今後詳細について協議していくことで合意しました。また、同日に外来勤務の歯科衛生士も参加して、スウェーデンの歯科予防技術を学ぶセミナーが多職種連携シミュレーション実習室で開催されました。今後さらに相互交流が発展すると期待されます。



OPEN CAMPUS 2018 開催報告

2018年のオープンキャンパスは、6月17日(日)、8月4日(土)・5日(日)、9月23日(日)の全4回(歯衛は5月26日(土)を含めて全5回)開催し、合計2,922名(生徒内数1,761名)の方に参加いただきました。当日は、大学や入試の概要説明のほか、学部学科ごとのプログラムに分かれて体験実習や模擬講義、施設見学を行いました。

※以下は、各学科で実施した体験実習の一部です。



薬学部 薬学科

薬剤師になった自分をイメージしながら薬剤師の現場がリアルに再現された実習室で、点滴用の注射剤づくりなどの調剤体験をしていただきました。



歯学部 歯学科

キャンパス内にある「歯科クリニック」の見学やむし歯削りの体験学習を実施。在学生が案内しながら参加者からの勉強や学生生活に関する質問にお答えしました。



看護福祉学部 看護学科

ヒト型フィジカルアセスメントモデル「physiko(フィジコ)」を使って、聴診、脈拍測定などを体験。実際に聞こえる心音に、ちょっとドキドキ…。



看護福祉学部 臨床福祉学科

声のトーンや表情から話し相手の「気持ち」を探る、ソーシャルワーカーの面談術を少しだけ伝授。在学生とペアになって、実際に体験していただきました。



心理科学部 臨床心理学科

たとえば子どもの発達支援のために、心理学ができることって?心理士やスクールカウンセラーの経験も豊富な先生が、仕事内容をご紹介しました。



リハビリテーション科学部 理学療法学科

理学療法士が使う専門機器は、筋肉の俊敏性や持久力、体重に対する筋力バランスなどまで測定可能。友だちと比べるなど、楽しく体験していただきました。



リハビリテーション科学部 作業療法学科

病院や福祉施設で実際に行われている作業療法と、また、そのような療法を行う理由や意義を楽しく体験していただきながらご紹介しました。



リハビリテーション科学部 言語聴覚療学科

言語聴覚士の仕事内容の説明や卒業生による講演のほか、聴力検査や、音響分析、舌の筋力の測定などを体験していただきました。



医療技術学部 臨床検査学科

顕微鏡を使って血液中の細胞を観察。その情報から、血液型なども調べるなど、患者さんの血液や組織から病気の原因を見つけ出す、臨床検査技師の仕事体験していただきました。

新学部も開催しました!



歯学部附属歯科衛生士専門学校 歯科衛生科

実習室の、本格的な歯科ユニットを使用して歯の模型をつくるための歯型の取り方や、超音波スケーラーを使った歯石取りを体験していただきました。

参加者アンケート結果

すべてのオープンキャンパスにおいて、参加者アンケートを実施しました。

Q. 本学(校)のどのところに魅力を感じましたか? (複数回答)

1位 医療系総合大学である **64.0%**

2位 資格取得(国家試験合格率) …… **35.9%** 4位 最新の実習設備が完備 …… **23.5%**
3位 カリキュラム・授業内容 …… **29.9%** 5位 大学病院等の医療機関がある …… **18.1%**

Q. オープンキャンパスの満足度は?

93%

93%の方が満足・少し満足と回答

参加者の感想

- 自分の志望する大学のことを知ることができ、とても良かった。この大学に入りたいと思った。
- 医療系総合大学なので多種多様な学科の人たちと話し合いができるなど、他の大学ではできないことができるところに魅力を感じた。この大学に入りたいと改めて強く思った。
- 学生さんが優しく話しやすかった。遅刻してしまっただけで、途中からでも嫌な顔をせず優しく接してもらえたので嬉しかった。
- 先生や先輩たちが優しくおもしろく、大学生活も楽しそうとても良かった。
- 生き生きとした学生さんが多くて良かった。学祭も見ることができて良かった。
- 先輩方が優しく丁寧に教えてくれたり、案内してくれて安心して参加できた。学校が綺麗だった。

- 話しやすい雰囲気を作ってもらったのでとてもリラックスして過ごせた。
- 小論文の対策の仕方が分かった。ホームページをみて疑問だったところが解決した。
- 治療の難しさや器具の種類を学べてよかった。一人で参加し不安だったがみなさんがフレンドリーで楽しむことができた。
- 先生と学生の仲が良いと感じた。他学科の人との交流があったと感じた。
- 親切に知りたいことを細かく教えていただき、子どもの学校選びに対する不安が全く無くなった。
- 卒業生の方の話がとてもわかりやすく、為になった。
- すぐわかりやすい説明だった。学生のことを考えているすばらしい大学だと思った。
- 「人」を大切にしているのが魅力的。

OPEN CAMPUS
特設サイトを開設しました!

体験授業や在学生との交流など、
オープンキャンパスの様子をご覧ください。/
<https://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~koho/opencampus/>



福祉まつり

ふれあい広場2018

学生がイチから
作り上げた
企画が満載!



臨床福祉学科を中心とする、 学生たちの活躍をレポートします。

桃太郎をベースにした オリジナル創作劇は大盛況。

9月1日(土)、当別町の総合保健センターゆとろにおいて当別町社会福祉協議会主催で開催された「福祉まつり ふれあい広場2018」に、臨床福祉学科を中心とするボランティアネットワークの学生41名がサポートスタッフとして参加しました。午前のプログラムでは、創作劇「当別版桃太郎～米太郎、鬼退治する?の巻～」を上演。学生はもちろん、ゆとろの職員や地域の小学生が練習の成果を発揮して熱演しました。貧困で人間から米を盗む鬼とそれを救いたい米太郎、町おこしのために進む温泉プロジェクトなど、テーマである地域福祉について考えさせられる作品となっており、観客にも好評でした。



飲食ブースは焼き鳥やフランクフルト、フライドポテトといった定番から、学生手作りのチヂミ、かき水、トロピカルジュースなどのメニューが豊富。早々に売り切れる店もあったほど。



物作りコーナーでは、学生スタッフがしっかりサポート。子どもたちが自分の手で完成できるよう、声はかけても見守る姿勢に感心する保護者もいました。

物作りからコーヒーの試飲まで、 多世代交流できる企画もいっぱい。

福祉まつりには、地域の子どもから高齢者まで、たくさんの人々が参加します。そうした幅広い年齢層の人たちに楽しんでもらうため、多世代交流部門を担当する学生たちが屋内外にいろいろなブースを設置。プラバンや小物入れ、コマを作る「物作りコーナー」をはじめ、子どもも大人も楽しめるオセロや魚つりを用意した「遊び場コーナー」、もれなくプレゼントがもらえるスタンプラリーなどを行いました。また、北海道医療大学カフェ同好会Bonheurによる試飲体験もあり、用意されたテーブルでおいしいコーヒーに舌鼓をうちながら、会話を楽しむ方々も多かったようです。

部門に分かれて会議をくり返し、事前準備にも追われましたが、学生たちにとっては自分の成長と達成感を味わえる、有意義な時間となったことでしょう。



カフェ同好会Bonheurのメンバーは、蒸らしや泡の広げ方、お湯を注ぐペースに心配りしながらコーヒーを淹れてくれました。自宅とは違う味わいに、来場者から質問を受ける一幕も。

歌にダンスにゲームと、 趣向を凝らしたステージ。

昼からの見どころは、屋外での多彩なステージ。「THE☆北海道医療大学」のよさこい演舞で、プログラムがスタートしました。その後、地域の「ゆうはな会」「ジャズダンスSKIP」による演舞や、「北海道医療大学アカペラ同好会chapel」によるコーラス。事前に参加者を募集した「～君はプレッシャーに打ち勝てるか!?～早口言葉チャレンジ!!」には、地元の高校生も参加して、緊張しながらお題を3回繰り返して、拍手を浴びていました。司会の学生スタッフの声

がけで、会場レポートも行われ、飲食部門がつくるチヂミも紹介されました。

そしてプログラムの終盤、会場をわかせたのが「当別音頭を守る会」「ひょっとこ踊り玉福」です。テーブル席の周りを、メンバーのみなさんが踊りながら回ります。その後ろには学生や地域の子どもたちが、見様見真似で行進していきます。ステージ発表の締めには再びよさこいメンバーが前方に集まり、みんな



顔合わせから本番までは約半月。キャストだけでなく、大道具や小道具、照明など各担当がしっかりと準備を進めて迎えた本番は見ごたえ十分。米太郎が生まれるシーンには赤ちゃんが登場し、観客を驚かせました。



THE☆北海道医療大学の演舞が始まると、屋外テーブルで食事を楽しんでいたみなさんも釘付けに。衣装の早変わりの際には、観客から歓声がありました。

2019年度 入試結果速報

北海道医療大学

AO方式・一般推薦・指定校特別推薦で志願者は合計225名

2019年4月新設の設置が認可された医療技術学部臨床検査学科のAO方式入試は12月18日(火)、一般推薦入試は12月9日(日)に実施します。

AO方式入試は、全体で159名の志願があり、107名が合格、実質競争倍率は1.5倍でした。一方、11月18日(日)の推薦入試は当別キャンパスをはじめ、帯広、北見、函館、仙台、東京、大阪、那覇の全国8会場で行われました。志願者総数は96名(指定校特別推薦除く)で、51名が合格、実質競争倍率は1.9倍でした。

編入学1期試験は、全体で14名の志願があり、13名が合格、実質競争倍率は1.1倍となりました。編入学II期試験は、薬学部と歯学部は1月31日(木)、看護福祉学部、心理科学部、リハビリテーション科学部は1月30日(水)に、それぞれ札幌、東京、大阪の3会場で行われます。

■2019年度 編入学試験(1期)結果 ()内は前年度実績

学部・学科名	入試形態	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	実質競争倍率
薬学部	2年次	2(-)	4(-)	4(-)	4(-)	1.0(-)
	3年次	3(7)	1(7)	1(7)	1(4)	1.0(1.7)
	3年次	若干名(若干名)	1(0)	1(0)	0(0)	-(-)
歯学部	2年次	若干名(若干名)	1(0)	1(0)	1(0)	1.0(-)
	3年次	若干名(若干名)	1(0)	1(0)	0(0)	-(-)
	3年次	若干名(若干名)	1(0)	1(0)	0(0)	-(-)
看護福祉学部 ●看護学科	社会人	6(6)	0(0)	0(0)	0(0)	-(-)
	一般		1(1)	1(1)	1(1)	1.0(1.0)
	指定校		0(0)	0(0)	0(0)	-(-)
●臨床福祉学科	社会人	6(6)	3(1)	3(1)	3(1)	1.0(1.0)
	一般		0(0)	0(0)	0(0)	-(-)
	指定校		0(0)	0(0)	0(0)	-(-)
心理科学部 ●臨床心理学科	社会人	2(2)	0(0)	0(0)	0(0)	-(-)
	一般		0(0)	0(0)	0(0)	-(-)
	指定校		0(0)	0(0)	0(0)	-(-)
リハビリテーション科学部 ●理学療法学科	社会人	3(3)	0(0)	0(0)	0(0)	-(-)
	一般		2(2)	2(2)	2(1)	1.0(2.0)
	指定校		0(0)	0(0)	0(0)	-(-)
●作業療法学科	社会人	3(3)	1(0)	1(0)	1(0)	1.0(-)
	一般		0(0)	0(0)	0(0)	-(-)
	指定校		0(0)	0(0)	0(0)	-(-)
●言語聴覚療法学科	社会人	7(7)	0(0)	0(0)	0(0)	-(-)
	一般		0(3)	0(3)	0(0)	-(-)
	指定校		0(0)	0(0)	0(0)	-(-)
合計		32(34)	14(14)	14(14)	13(7)	1.1(2.0)

■2019年度 AO方式入試・推薦入試結果 ()内は前年度実績

学部・学科名	入試形態	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	実質競争倍率
薬学部	AO方式	16(16)	25(33)	25(33)	24(19)	1.0(1.7)
	一般推薦	17(17)	13(27)	13(27)	11(27)	1.2(1.0)
	指定校特別推薦	29(29)	34(30)	34(30)	34(30)	1.0(1.0)
歯学部	AO方式	20(20)	12(11)	12(11)	12(11)	1.0(1.0)
	一般推薦	8(8)	1(1)	1(1)	1(1)	1.0(1.0)
	指定校特別推薦	8(8)	4(3)	4(3)	4(3)	1.0(1.0)
看護福祉学部 ●看護学科	AO方式	6(6)	27(48)	27(48)	10(10)	2.7(4.8)
	一般推薦	16(16)	44(38)	44(38)	18(21)	2.4(1.8)
	指定校特別推薦	16(16)	32(28)	32(28)	32(28)	1.0(1.0)
●臨床福祉学科	AO方式	15(15)	5(10)	5(10)	5(9)	1.0(1.1)
	一般推薦	10(10)	0(1)	0(1)	0(1)	-(-)
	指定校特別推薦	14(14)	12(16)	12(16)	12(16)	1.0(1.0)
心理科学部 ●臨床心理学科	AO方式	10(10)	15(13)	15(13)	14(12)	1.1(1.1)
	一般推薦	10(10)	3(2)	3(2)	3(2)	1.0(1.0)
	指定校特別推薦	10(10)	14(13)	14(13)	14(13)	1.0(1.0)
リハビリテーション科学部 ●理学療法学科	AO方式	10(10)	43(43)	43(43)	15(15)	2.9(2.9)
	一般推薦	10(10)	29(21)	29(21)	13(14)	2.2(1.5)
	指定校特別推薦	10(10)	16(14)	16(14)	16(14)	1.0(1.0)
●作業療法学科	AO方式	5(5)	13(20)	13(20)	10(8)	1.3(2.5)
	一般推薦	5(5)	4(14)	4(14)	3(8)	1.3(1.8)
	指定校特別推薦	5(5)	7(5)	7(5)	7(5)	1.0(1.0)
●言語聴覚療法学科	AO方式	12(12)	20(22)	20(22)	18(19)	1.1(1.2)
	一般推薦	5(5)	2(7)	2(7)	2(4)	1.0(1.8)
	指定校特別推薦	10(10)	10(14)	10(14)	10(14)	1.0(1.0)
合計	AO方式	94(94)	159(193)	157(193)	107(96)	1.5(2.0)
一般推薦	81(81)	96(111)	96(111)	51(78)	1.9(1.4)	
指定校特別推薦	102(102)	129(123)	129(123)	129(123)	1.0(1.0)	
		277(277)	385(427)	385(427)	288(297)	1.3(1.4)

※歯学部・臨床福祉学部のAO方式入試前年度実績はII-III期を含みます。

歯学部附属歯科衛生士専門学校

AO方式入試に12名の受験

AO方式入試には現在までのところ12名の受験があり、全員が合格、実質競争倍率は1.0倍でした。また、11月18日(日)の推薦入試(I期)・編入学試験には各1名の志願があり、全員が合格、実質競争倍率はそれぞれ1.0倍でした。一般前期入試(B日程)は、1月31日(木)に札幌、旭川、帯広、北見、函館の全道5会場で行われます。

■2019年度 AO方式入試・推薦入試(I期・II期)結果 ()内は前年度実績

学科名	入試形態	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	実質競争倍率
歯科衛生科	AO方式	30(30)	12(27)	12(27)	12(27)	1.0(1.0)
	12月5日(水)現在 推薦入試	10(10)	2(0)	2(-)	2(-)	1.0(-)

■2019年度 編入学試験結果

学科名	入試形態	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	実質競争倍率
歯科衛生科	2年次	若干名(若干名)	1(1)	1(1)	1(1)	1.0(1.0)

札幌丘珠高等学校との 高大連携授業を実施。

7月23・24日(月・火)、北海道札幌丘珠高等学校の数理フィールド看護生物選択3年生の15名を対象とした高大連携事業を実施しました。23日(月)は、臨床福祉学科の志水朱講師が担当する講義・演習を受講。「コミュニケーションの理解と自己理解の演習」をテーマとし、コミュニケーションの構造とプロセス、言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション、自己理解等についてグループ演習を中心に学びました。24日(火)は、臨床福祉学科の池森康裕助教が担当する実技を受講。「身体に障がいのある高齢者疑似体験」「福祉用具を学ぶ(移乗リフト)」をテーマとし、老化や老化に伴う病気を体験的に学びました。

8月27・28日(月・火)には、北海道札幌丘珠高等学校3年生の数理フィールド看護生物選択16名、生物研究選択10名を対象とした高大連携事業を実施しました。

看護生物選択のみなさんは、母体の変化や乳児期の子どもの特徴、子どもの安全を考慮した身体計測や世話の仕方などについて、妊婦体験や乳幼児の抱っこなどの演習を通じて体験し、看護学の母性領域と小児領域に触れました。また、生物研究選択のみなさんは、遺伝子とゲノム構造、遺伝子解析などについて、口腔粘膜遺伝子解析やタマネギからDNAを採取するなどの実験を通じて体験し、DNAの基礎知識について学びました。



札幌開成中等教育学校 特別講義を実施。

8月20日・21日(月・火)の2日間、札幌開成中等教育学校3・4年生の33名を対象としたプレ先端科学特論を開講しました。

1日目は、健康科学研究所の太田亨教授による講義を受講、遺伝子とゲノム構造や遺伝子解析などDNAの基礎知識を学びました。また、午後からは口腔粘膜遺伝子解析を体験し、マイクロリットルの世界に触れました。

2日目は、歯学部の長田和実准教授による講演を受講、絶滅したオオカミの臭いに対するエゾシカの反応を例に、においと嗅覚について学びました。午後からは岩手医科大学の徳富智明教授による講演・演習を受講し、ゲノムや遺伝性疾患、遺伝学的検査について学んだうえで家系図の重要性について触れ、自動家系図作成ソフト「f-tree」を使ってさらに理解を深めました。また、1日目に採取した自分のDNAを解析するとともに、タマネギからDNAを採取し、糸状のDNAを目で確認しました。



参加された生徒の皆さんは、大学ならではの講義や実験を体験し、知識と関心を深める有意義な時間を過ごされたようでした。

2018年度 地区別懇談会を開催、 多数のご出席ありがとうございました。

今年度の地区別懇談会は、10月13日(土)から11月4日(日)までの期間、全国15地区17会場(右表参照)で開催し、937組1,377名の保護者の皆様にご出席いただきました。(出席率27.3%)

各会場では、総会(後援会・学園役員あいさつ/学園動向報告)、学部・学校別懇談会(現況報告、国家試験・就職関連動向報告)、全体懇談会、個別面談(学生生活全般に係るご相談)を実施し、特に、担当教員との熱心な個別相談が行われました。

後援会は、学生のサポート役、保護者の皆様と卒業生、学園をつなぐパイプ役として、また、学園のけん引役として組織の強化、地区支部の活性化、学生生活関連助成、同窓会活動支援等を柱とし、学生生活における快適な環境をつくることを大きな目的として事業活動を推進しています。

地区別懇談会は、後援会が「保護者の皆様と学園をつなぐ貴重な架け橋」として最も力を入れている事業活動のひとつであり、皆様により一層ご満足いただけるよう、内容の更なる充実に向け、今後も改善を図って参りますので、温かいご支援、ご理解とご協力を賜り、来年度もぜひご出席くださいますようお願い申し上げます。



■ 総会



■ 個別面談

開催地	開催日	出席者数	
		大学・大学院	専門学校
青森	10月13日(土)	31組	—
大阪	10月13日(土)	25組	—
名古屋	10月14日(日)	6組	—
苫小牧	10月14日(日)	39組	2組
北見	10月14日(日)	37組	2組
札幌	10月21日(日)	420組	10組
釧路	10月27日(土)	48組	3組
帯広	10月28日(日)	67組	2組
盛岡	10月27日(土)	19組	—
仙台	10月28日(日)	19組	1組
旭川	11月3日(土)	70組	2組
東京	11月3日(土)	32組	—
函館	11月4日(日)	80組	1組
那覇	11月3日(土)	10組	—
福岡	11月4日(日)	11組	—
小計		914組	23組
合計		937組	

2018年度 学内合同就職相談会を開催。

臨床福祉学科・臨床心理学科を対象とした「学内合同就職相談会」*1と、理学療法学科・作業療法学科・言語聴覚療学科を対象とした「学内合同就職相談会」*2を10月5日(金)に開催しました。



当日は道内外の病院・施設・公務等団体から来学された多数の人事担当の方々に、学生に対して就職に関する説明や相談等を行っていただきました。参加した学生は各ブースを積極的に訪れ、活発に相談を行うなど、終始賑わいをみせていました。

本学では各学部では毎月、就職ガイダンス等を行い、学生の卒業後の確実な就職にむけて、教職員協働のうえ、きめ細やかな指導をしています。各学部・学科にかかわる職種の求人お申し込みは、右記の就職関連ホームページをご参照ください。



10月5日(金) ※1[参加団体] 53団体
 ※2[参加団体] 122団体

●病院 ●施設 ●公務団体 ほか

就職関連ホームページ

<https://www.hoku-iryu-u.ac.jp/~syusyoku/>

私の学生時代

歯学部
歯学科

教授 志茂 剛



このたび、「私の学生時代」の執筆のお話をいただき、懐かしい日々を思い返すことができました。ありがとうございます。私の大学生活の最初の6年間はクラブ活動とアルバイトに日々明け暮れ、その後の大学院4年間は臨床と研究漬けの毎日でありました。

川と温泉のある小さな田舎町に育ち、小学校から憧れていた先輩が歯学部に進んだことをきっかけに歯科の道を選びました。大学生活は広島市内に6畳1間の間借りでスタートし、每晚近くの銭湯に通っていました。銭湯では背中に立派な桜吹雪や龍などさまざまなアートを施した方々と洗い場を共有することも当時はございました。大学の講義は原子爆弾で持ちこたえた黒ずんだレンガ造りの

建物でも行われ、さまざまな学部の学生と入り混じって聴講していました。校内には過激派・中核派の拠点施設が堂々とあり、ヘルメットとサングラス、マスクで覆った武装集団に授業が乗っ取られ、延々と演説をきかされることも度々でした。当時、若かった我々は彼らを講義室から追い払うため、ドイツ語の講義に侵入してきた武装集団のお尻に蹴りをいれたのです！あとは想像におまかせします。昼間はクラブで練習を行い、夜はアルバイトで展示会場設営、警備会社、測量などのさまざまな職種の方々にお世話になりました。臨床実習で最初の問診が上顎癌の患者様で、口腔外科を専攻するきっかけとなりました。卒業後は岡山大学第二口腔外科(松村智弘教授)で外来と病棟で臨床を行う傍ら、



軟式テニスのオールデンタル団体戦で3連覇を達成したときの表彰式。(手前が私)

夜と休日は口腔生化学教室の滝川正春教授に癌の血管新生の研究のご指導をいただきました。毎週月曜日の朝の進捗報告会に急かされ、日曜日に重い足で研究室のドアをひらくと、必ず滝川先生は深夜まで仕事をしていたらよかったことが懐かしく思い出されます。

北海道医療大学は、臨床も研究も垣根がなく人を育てるうえで素晴らしい環境であると思っています。今後も人と人の繋がりを大切にしながら臨床、教育、研究に携わって参りたいと思います。

私の学生時代

今、本学の教壇に立たれている先生たちは、学生時代をどのように過ごしていたのでしょうか。今回は志茂教授と長谷川講師のお二人に、当時の様子を語っていただきました。

私の学生時代

リハビリテーション科学部
理学療法学科

講師 長谷川 純子



中学時代、脳腫瘍のために半身まひとなった伯父の影響で、リハビリテーション職に興味を持ちました。伯父は理学療法中の疼痛に苦しみ、何か色々やったところで日常生活に変わりがあるわけでもなく、イマイチな印象を持った理学療法士という職業。それでも理学療法士の仕事を調べてみると良さそうな仕事にも見え、まずは自分



大学3年生の実習で出会った患者さんと。白衣を着ているのが私。

でやってみたいと思って札幌医科大学の理学療法学科に入学しました。

大学生とはもっと時間に余裕のある日々だと思っていましたが、実際はタイトな講義日程と大量のレポートに追われる日々。同期の協力なしには試験もレポートも突破できなかったと思います。時間割が窮屈すぎる、課題がありすぎるといつも文句を言っていました。勉強にはそこそこ真面目に取り組んでいたと、一応そういうことにさせてもらうことにします。

プライベートでは旅行や音楽にハマりました。ちょっと話がそれますが、私は小学生の時にいじめられ、以来すっかり委縮してしまっただけで大学生になっても他人の顔を窺う癖が抜けませんでした。メンタルのリハビリテーション途上でもいまいしょうか…、そんな中で「他人を気にせずにやりたいことをやってみる」という目標をたて実行したのが旅行や音楽だったわけです。



同期との温泉旅行で。左から2人目が私。

音楽は興味があったドラムから始まってアコースティックギターに手を出し、大学の友達と「ゆず」のコピーをするなどして楽しみました。旅行は相部屋式のユースホテルで色々な人と出会う旅が好きでした。大学時代にユースで知り合った友達の中にはいまだに付き合いが続いている人もいます。いろいろな背景を持つ人と交流すると自分の既成概念が壊され、新しい風が吹いて一回り成長できるような気がしたものです。この経験が、後に日本を飛び出して海外に行ってみようという気持ちに繋がり、青年海外協力隊員としてブルキナファソやマラウイに行く基礎となったのかもしれない。アラフォーでもアラフィフになっても、やりたいことをやってみる精神で日々過ごしていきたいと思います。

OB訪問

今回は、在宅ケアの拠点、多職種連携教育の拠点として本学が2015年12月に開設した「地域包括ケアセンター」で介護支援専門員（ケアマネジャー）として活躍する峯岸さんを訪ねました。

北海道医療大学居宅介護支援事業所 (地域包括ケアセンター内)管理者・介護支援専門員

峯岸 高裕さん (看護福祉学部臨床福祉学科2007年3月卒業、大学院
看護福祉学研究科臨床福祉学専攻修士課程2015年3月修了)

■ チームをコーディネート

札幌あいの里キャンパスの地域包括ケアセンターは、病院や福祉施設を中心に提供されてきた医療、介護などのサービスを在宅で受けられる地域社会づくりの要となる施設です。峯岸さんは40人弱の利用者さんを担当、個々の課題に応じて各分野の専門職をコーディネートし、オーダーメイドの在宅ケアを組み立て、常にチームの力が最大値になるよう細かな修正を加えアップデートしています。定期モニタリングに臨時訪問を加え1日の平均訪問数は3、4軒。取材日に同行させていただいた利用者さん宅は、峯岸さんの仕事の魅力を雄弁に語る在宅ケアの現場でした。



同センターは訪問看護ステーションを併設。峯岸さんの隣は看護学科卒の出良(いでら)美香さん、一番左は大学院修了生で皮膚・排泄ケア認定看護師の佐藤明子さんです。訪問看護師のもつ情報量は膨大、日々の共有が欠かせません。

■ 寝たきりを防ぐ

ベッドから車椅子に自力で移乗して迎えてくれたYさん。2年ほど前に危篤状態に陥ってほぼ寝たきり状態になった方です。入院先の病院で「自宅に戻ることは無理」と判断されましたが、本人、同居の妹さんが在宅ケアを強く希望したため、峯岸さんが関わることになりま



峯岸さんに信頼を寄せたYさんは、本学の実習にも快く協力してくださっています。もうすぐ来る妹さんの誕生日は家族が集まって焼き肉店で祝うそう。「3年ぶりの外食」と顔を輝かせるYさんがQOL(クオリティオブライフ/生活の質)の重さを教えてくれます。

した。峯岸さんは、医師・歯科医師の往診、訪問看護師(健康管理と自宅リハビリテーション)、訪問薬剤師、ヘルパー、デイケア(リハビリテーション)を組み合わせ、本人・家族と専門職が一つになって「車椅子を使えるように」「自力でタクシーに乗れるように」という各段階の目標へ向かう道筋をつけました。寝たきりになるかもしれないYさんは、いまは外での杖を使った歩行訓練も始めています。

■ 責任の重さがやりがいい

本人の意志と各専門職の総合力が存分に発揮されるためには、利用者さんに寄り添うという思いだけでなく、厳しく冷静に判断する目が要求されるといいます。「Yさんのケースも、本人と家族の意志に揺れないことを何度も確認し、医療・介護の専門職と『必ずできる』という確信が得られるまで検討を重ねました。同居の妹さんとの共倒れを招いてはなりません。判断を誤れば世帯を壊しかねない仕事であることを常に肝に銘じています」と峯岸さん。他者の人生に大きな影響を与える責任の重さこそ「何物にも代え難い、この仕事のやりがいいです」とさっぱりと言います。

■ アカデミックな視点を

峯岸さんは前職の札幌市社会福祉協議会勤務中に、現場を離れることなく大学院に入学、修士課程を修了しました。在学中は夜11時から机に向かうこともしばしばだったといいます。「そこまでしてどうして学問を?」の問いに「福祉現場の多様な課題を解決するためには、経験だけではなく学術的な分析や考察が不可欠と感じたからです」と峯岸さん。大学院では福祉疫学に着目し、現場の課題に対して統計分析を用いた研究活動を行いました。「福祉の専門職が現場と学術分野をフレキシブルに行き来できるようになれば、福祉はもっとよくなる、とも考えています」。現在は大学院の特別講師として後輩の指導にもあたる峯岸さんの視野の広さと多方面からのアプローチが、住みやすい地域社会づくりに生かされていくこれからは楽しみです。



学部卒業後は有料老人ホーム、札幌市社会福祉協議会で4年ずつキャリアを積んで現職に。前職での高齢者の虐待問題、消費者被害防止の経験と修士課程修了が買われ、現在の職場から声がかかりました。

あのときの“ちょっといい話”、今まさに進んでいる“新しい取り組み”。北海道医療大学が、これから未来へ向かう姿を探るために、本学の歩みを“知る人”、“つくる人”に、お話をうかがっていきます。

医療大生にめざしてほしいのは、地域医療のリーダーです。

退路を断ち、北海道へ。

歯科医師をめざし、東日本学園大学(現・北海道医療大学)に入学したとき、私はすでに31歳。しかも、妻と2人の子どもがいました。13歳年下の同級生につけてもらったニックネームは「日本兵」。そんな、ちょっと変わった歯学部1期生の話です。

もともと私は、1971年に広島大学の大学院修士課程を修了後、日立製作所・日立研究所で研究職として勤務していました。ところが、寝る間も惜しんで働く会社人間は、入社7年目に体調を崩してダウン。「このままでいいのか」と自分の人生に疑問が生じました。そして、思いついたのは「医療がよさそうだ」。さっそく知り合いの歯科医師に相談したところ、東日本学園大学が歯学部を開設すると教えてくれたのです。それまでは、じっくり準備して次年度に受験しようとも考えていましたが、30歳の私にそんな猶予はないという結論に。最短で歯科医師をめざすために、東日本学園大学の受験を決めました。会社には退職願を出し、2週間残っていた有給休暇を使って猛勉強。何とか合格しました。

しかし、私の両親は、歯科大学に行くことを認めてくれませんでした。学費や生活費は妻の親族が援助してくれたのです。留年など、絶対にできません。建てたばかりのマイホームも売り払いました。妻と子どもたちに、それ以上迷惑をかけられません。まさに退路を断って、北海道へ。とにかく勉強に励み、支えてくれた家族や親族に、一日でも早く恩を返したいという強い思いがありました。



歯学部1期生の国家試験合格率100%に大きく貢献した、国家試験対策委員会の中心メンバー。一番右上が齊田さん。活動拠点の教室は、メンバーが大学職員と折衝し確保。職員は活動を支援するためにコピー機も設置した。

みんな一緒に、合格したい。

1978年、二度目の学生生活がスタート。年下の同級生は親しく接してくれ、妻と2人の子どもは贅沢のひとつもいわず、北海道の暮らしを楽しんでくれました。だからこそ、いい思い出ばかりです。そのひとつが、漕艇部の創部に携わったこと。1期生は、何をするにも自分たちで行動しなければならず、まずは仲間と協力して部員を集めました。しかし、漕艇部と名乗りつつ肝心のボートがありません。ですから、部員が小遣いを持ち寄って、世界で一隻のボートを造船所につくってもらいました。創部を通して深まった絆は、かけがえのない財産です。

もうひとつの思い出は、国家試験対策委員会を立ち上げたこと。5年生になると、試験のことが気がかりでなりません。自分はもちろん、苦業をともにした仲間も、全員で合格したかったのです。そこで、成績優秀者に声をかけ、勉強会を開いたり、他大学から情報を入手したりできる体制をつくりました。私自身も同級生にノートを貸し、わからないところがあれば教えました。また、我が家に集まって勉強することも。そんなときは妻がみんなにカレーをつくってくれました。一時は勉強会の出席率が低くなったりしましたが、最終的には一丸となって国家試験に臨み、受験者の全員合格を達成。学生主体の活動は現在も受け継がれており、少しは母校への恩返しになっているのかもしれない。

1期生は現在、全国各地で歯科医療をリードする存在になっています。齊田さんにお世話になったから」と尾道を訪ねてくれる仲間がいることはうれしいですし、何より同期の活躍がとても誇らしいです。

卒業してからの、本当のスタート。

私の場合、卒業後の目標は明確でした。40歳までに、故郷で自分の歯科医院を開業し、30年間は仕事を続けることです。自分に足りないことを学ぶために、2カ所の歯科医院勤務を経験。そして、39歳のとき、感謝の気持ちを返すという思いを込めて「返仁」と理念を掲げ、開業することができました。

しかし、しばらくは臨床に経営に、言い表せないほど大変な日々が続きました。従業員への要求はかなり厳しく、慕われる院長ではなかったと思いま

齊田 健一さん

(歯学部1期生)

1986年、広島県尾道市にさいだ歯科医院を開業し、30年以上にわたって臨床活動に従事。同時に、尾道市歯科医師会会長(2011～2015年)を務めるなど、地域の歯科医療の発展にも尽力している。歯学部同窓会副会長、学校法人東日本学園後援会中・四国支部長。



1979年10月、音別キャンパス構内の沼で行われた漕艇部の進水式。翌年4月、3年生となった1期生は当別キャンパスへ。そのため、ようやく完成した記念すべき第1号ボートはすぐに2期生へと受け継がれた。

す。そんな時期、私の様子を見かねてでしょうか、お世話になっていた歯科医師の先生が、とあるセミナーを紹介してくれました。従業員あつての自分と気づかされる内容で、「返仁」とかけ離れていたことを自覚。「上から目線を捨てよう」。そう思っはじめたのが、トイレ掃除です。毎日、誰よりも早く出勤して掃除。習慣になる頃には、「さいだ歯科医院は今日も存在している」、「トイレを使ってくれる患者さんや従業員がいる」と、勉強に励んだ学生時代のような、素直な感謝の気持ちで満たされていました。

2016年、院長職は次男に譲りました。開業30年という目標を達成したからです。奇しくも次男は、私の開業時と同じ39歳でした。ちなみに長男は、結婚相手の故郷・沖縄で歯科医院を開業。家族で北海道へ渡った40年前、3歳と1歳だった子どもは2人とも医療大を卒業し、歯科医師として頑張っています。一方私は、変わらず臨床現場に立っています。毎日のトイレ掃除は、楽しくて仕方ありません。

これから医療は、在宅、予防へシフトした地域包括ケアが主流になります。歯科が全身に与える影響も次々と明らかになり、歯科医師の活躍の場はさらに広がるでしょう。尾道市の介護・医療ネットワークで副委員長を拝命している私はそう実感していますし、少なくとも、歯科医院で患者さんを待つ時代は終わりました。求められているのは、さまざまな現場に足を運び、多職種と連携しながら地域社会に貢献すること。ですから、訪問診療の現場や福祉施設での口腔ケアを経験できる学生のみなさんは、とても恵まれています。大切なのは、卒業後どう羽ばたくか。国家資格の取得はゴールではなく、スタートであることを忘れないでください。そして、北海道医療大学は、医療人の未来を展望できる場所であり続けてほしいと願っています。

2018 SCP (学生キャンパス副学長) 任命式

11月28日(水)、2018 Student Campus President(学生キャンパス副学長:通称 SCP)任命式が行われました。各学部から、選挙により選出された学生に対し、浅香正博学長からSCP任命状と専用ブレザーが手渡され、激励の言葉をいただきました。

SCPは、より良い大学づくりのために学生代表が教職員とともに各種プロジェクトの企画・立案を行い実施する、全国でも珍しい本学独自の制度です。SCPの多岐にわたる活動内容は、全国からも注目されています。



2018 SCP (第11期)	薬学部 (立候補受付中)	心理科学部	1年 黄シーツォン
	歯学部	1年 高橋 宏夢	リハビリテーション科学部 2年 満保 仁胡
	看護福祉学部	2年 駒沢 尚史	

SCPホームページ <http://scp.hoku-iryo-u.ac.jp/>

大学院歯学研究科の 原田文也さん(現:歯学部助教)が デュアルディグリーを取得。

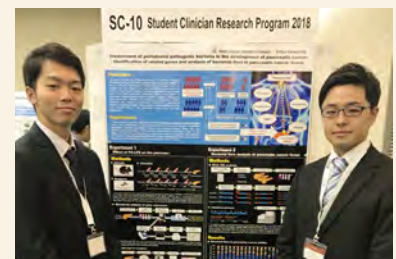
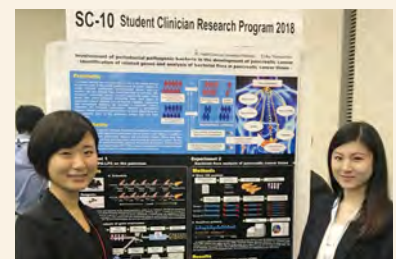
デュアルディグリー・プログラム(DDP)を専攻していた原田文也さんが、大学院歯学研究科と台北医学大学口腔医学院双方の博士の学位を取得しました。

DDPは、大学院歯学研究科と台北医学大学口腔医学院との間で、大学院の単位の一部に互換性を持たせ、互いに認める試験に合格し、両者から論文が学位論文と認定されれば、各々の大学から博士号を同時に取得できる制度です。



2018年度(第24回)SCRP日本代表選抜大会で 本学が臨床部門第1位入賞。

8月24日(金)、第24回スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム(SCRP)日本代表選抜大会が、日本歯科医師会館にて開催され、歯学部5年生のグループ(山下絵利子さん、江端一馬さん、鈴木圭乙里さん、巢山航さん)が臨床部門第1位(総合では準優勝)に入賞しました。これは、世界各国の歯学部学生が集う米国で開催されるSCRP大会に参加するための日本予選であり、これまでの研究成果を発表するものです。本グループは「歯周病原細菌の隣がん発症への関与」のテーマで、ファカルティアドバイザーである歯学部の安彦善裕教授と植原治助教の指導の下、研究を進めてきました。山下さんが代表で発表し、英語による発表、質疑応答を見事にやり遂げ、全国歯科大学・歯学部26校中、臨床部門第1位に輝きました。本学の参加は今年で17回目になりますが、第1位に入賞するのは、2006年度(第12回)大会と2012年度(第18回)大会に続き3回目です。この実績は全国でもトップレベルであり、今後も本学の学生による研究成果が期待されます。



歯学部の岡山三紀講師が アジアベンチプレス選手権大会で金メダルを獲得。

9月18日(火)からアラブ首長国連邦ドバイにて「2018年アジアベンチプレス選手権大会」が開催され、歯学部の岡山三紀講師が120kg級M-1 Equipped部門日本代表として並み居る強豪を抑えて、見事金メダルを獲得しました。岡山講師は、これまで多くの大会で優勝しており、今後ますますの活躍が期待されます。



北海道胆振東部地震被災地へ歯科医療スタッフを派遣。

報道等によってご承知のとおり、胆振地方には未だに避難所生活を強いられ、物資をはじめ医療面などでの支援を必要としている方々がたくさんおられます。歯科クリニックでは、北海道および北海道歯科医師会の要請の下、北海道災害対策本部保健医療調整本部歯科支援チームの現地コーディネーターを務める地域支援医療科の越野寿教授が中心となり、北海道大学、苫小牧歯科医師会、北海道歯科医師会、北海道歯科衛生士会と連携し、歯科医師および歯科衛生士からなる「歯科医療支援チーム」を結成。9月10日(月)から24日(月)までの15日間、厚真町、むかわ町、安平町の3町被災地において口腔衛生状態の改善に貢献する活動を実施しました。

今後も北海道、北海道歯科医師会からの要請に応じて支援活動に従事していく予定です。



スンシル大学校(韓国・ソウル)社会福祉学部と看護福祉学部との学部間交流協定が締結。

10月22日(月)にスンシル大学との学部間学術交流協定締結の調印式を行いました。今後、教職員及び研究者の交換交流や学生の交流を通じて、双方の教育、研究の活性化を図っていきます。

スンシル大学校

1897年に米国人キリスト教宣教師により平壤に設立した崇実学堂に始まる。現在は9単科大学、29学科、10学部、一般大学院に40学科(修士・博士課程設置36学科+修士課程設置4学科)、特殊大学院に6大学院41学科(専攻)を開設している私学総合大学。



学校法人日本体育大学・当別町・株式会社北海道銀行との4者連携・協力に関する協定書の締結。

11月5日(月)、学校法人日本体育大学、当別町、株式会社北海道銀行と本学園との間で4者による連携・協力に関する協定の締結式が執り行われました。

この連携は、「体育・スポーツ及び健康づくりの分野において、相互に連携・協力し、また、それぞれの有する資源を有効かつ適切に活用し、4者の一層の発展とさらなる社会貢献を図ること」を目的としています。

今後は、教員、学生、町民による交流、学術研究交流、講演会の共同開催など具体的な取組が行われる予定で、大学間交流、スポーツ振興、医療・福祉の推進、地域創生に大いに貢献することが期待されます。



NEWS

「わが国から肺がんと胃がんで亡くなる人をなくすために」

浅香 正博学長の著書が発行されました! お求めは、紀伊国屋・丸善売店にて。300円(税込)で発売中!



EDITOR'S NOTE

2018年も残りわずかとなりました。今年は平昌オリンピックに始まり、サッカーW杯などスポーツの話題で盛り上がりましたね。平昌オリンピックでは、スキージャンプやスピードスケートなど北海道出身の若手選手の活躍が目立ちました。競技種目の中でもカーリング女子は大きな注目を集め、北海道弁「そだね〜」や「もぐもぐタイム」の流行語が生まれたり、サッカーW杯では、グループリーグを突破し、決勝トーナメント進出を果たした日本チームを応援しようと寝不足続きの方も多かったのではないのでしょうか。

天皇陛下が生前退位されることになり、巷では「平成最後の〇〇」という言葉を耳にする機会も多かったように思います。高校野球(甲子園)は今年で100回の記念大会を迎え、様々な節目の年とも言えるかもしれません。本学では、今年度から臨床心理学科で「公認心理師」の国家資格取得に対応した新カリキュラムがスタートし、来年度から医療技術学部臨床検査学科を新設するなど、まさに節目の年となりました。今後とも学生、教職員、卒業生の皆さまからお力添えをいただき、チーム一丸となって新たな時代へチャレンジし続けたいものです。(S・Y記)

ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.171

STAFF ● 遠藤 泰 浜上 尚也 仲西 康裕 松田 康裕
遠藤 紀美恵 志渡 昇一 金澤 潤一郎 澤田 篤史
本家 寿洋 柳田 早織 大山 静江 杉谷 昌彦
三川 清輝 小林 伶

発行日 ● 2018年12月

編集・発行 ● 北海道医療大学広報部 入試広報課
〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757
☎0120-068-222
http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしています。
E-mail:nyushi@hoku-iryu-u.ac.jp



■北海道医療大学の教育理念
生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを本学の教育理念とする。